

浅田区支え合い新聞

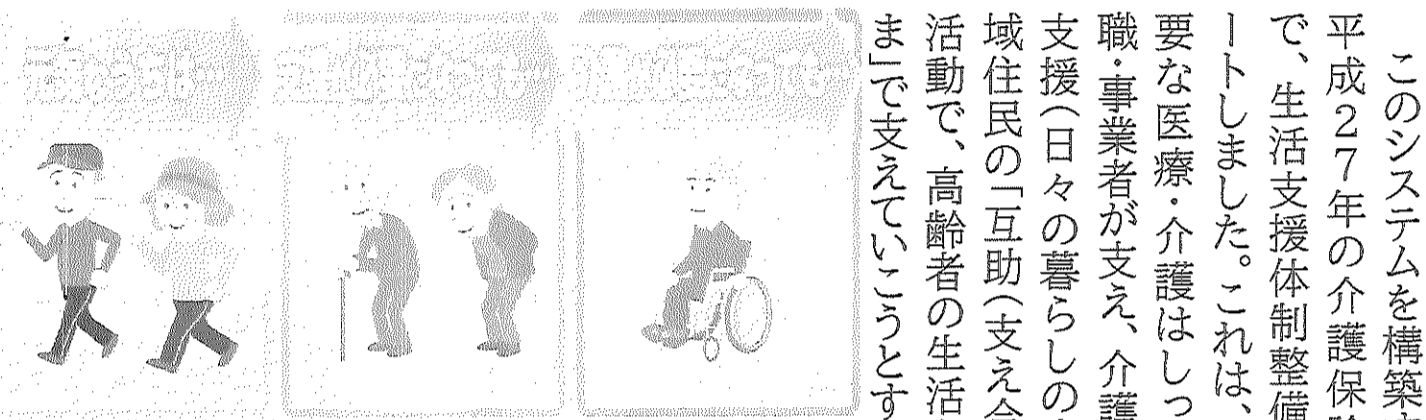
生活支援体制整備事業とは？

日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進んでいます。65歳以上の人口は、現在3,600万人を超えており（2020年9月15日現在推計）、2042年の約3,900万人でピークを迎えますが、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。

このような状況の中、団塊の世代が75歳以上となる2025年（令和7年）以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加するこが見込まれ、その結果、介護の担い手減少、一人暮らし世帯の増加、認知症患者の増加など、社会が大きく変わり続けます。

このため、厚生労働省においては、2025年を目途に、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。（厚労省ホームページより一部引用）

このシステムを構築するために、平成27年の介護保険制度改正で、生活支援体制整備事業がスタートしました。これは、専門性が必要な医療・介護はしっかりと専門職・事業者が支え、介護予防や生活支援（日々の暮らしの支援）は、地域住民の「互助（支え合い）」による活動で、高齢者の生活を「お互いさまで支えていこう」とするものです。



助け合い サービス

「医療・介護サービスの利用」と、「地域の助けあい」で、高齢化を乗り切る！

笑門 福来

第20回シルバークリッパ入選作品

全国有料老人ホーム協会発表：一部抜粋

- ◆妻が言うひとまず預かる給付金
- ◆円満の秘訣ソーシャルダンス
- ◆テレワークやってみてみたいが億億職
- ◆脳トレを毎日してます探し物
- ◆武勇伝俺の話は意親客
- ◆入らない母の入歯で騒ぐ父
- ◆我家では濃厚接触とんとなし
- ◆妻の留守たつぷり醤油寿司刺身

「支援する側」と「支援される側」はもう古い！？

「私は支援される側だから何もできない」という声がよく聞かれます。でも、それはこれまでの話かもしれません。生活支援体制整備事業ができた背景には、急激な増加が予想される要支援者などについて、掃除や買い物などの生活行為の一部は難しくなっても、身の回りの生活は自立している場合が多いことから、「支援する側」と「支援される側」という分け方ではなく、地域参加や趣味を続けることで、結果として介護予防になっていくという支援が重要だと位置づけられたことがあります。

生活支援体制整備事業の支え合いについて、国は、支え合いの内容を決めておらず、担い手は地域住民と位置づけています。

「国民に対する丸投げだ！」という意見もあります。制度が始まって6年。「支援する側」「支援される側」を見直し、支え合いが進んできた市町村となかなか進まない市町村がみられるようになってきました。

「情けは人の為ならず」は、下記のような統計でも結果がでており、運動よりも人とのつながりが健康に好影響を与えていることを示しています。

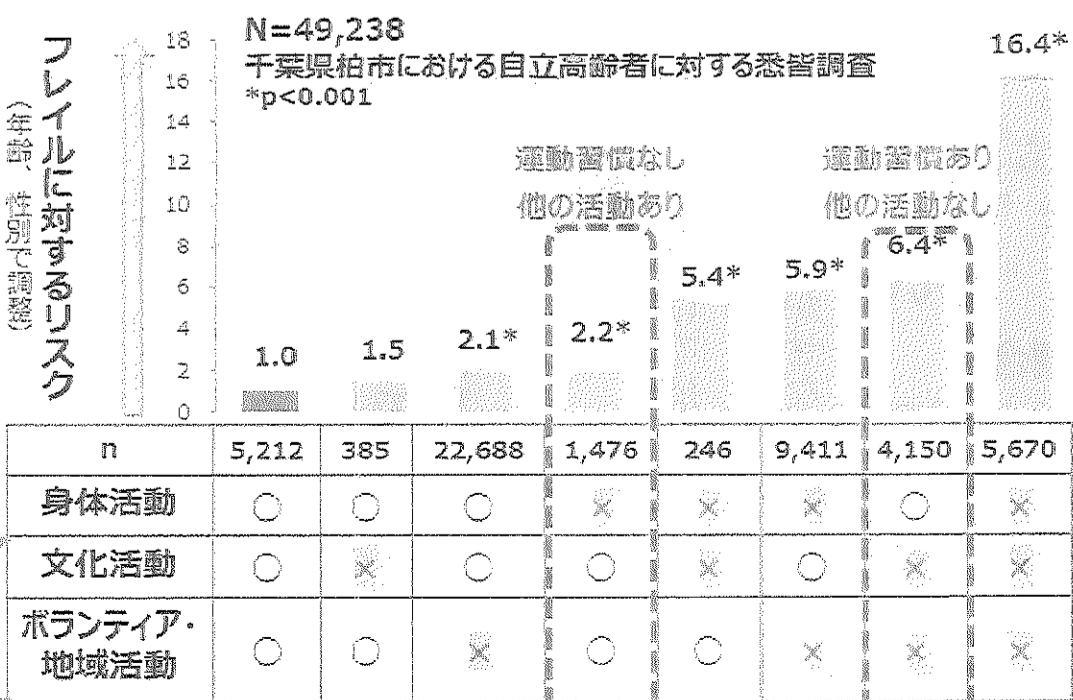
支え合いを考えると、本来「地域への丸投げ」でしようか。地域毎の「知恵比べ」かもしれません。

発行
日進市
社会福祉協議会
(第1層生活支援コーディネーター)
日進市蟹甲町中島22
電話 0561(73)4885

- 介護の担い手がなくなる？ →なぜ？
- 施設に入れなくなる？ →なぜ？
- 家族には迷惑をかけたくない →どうしよう？
- 事業説明のご要望は☎
日進市社会福祉協議会
0561(73)4885

今日の紙面
生活支援体制整備事業とは？
「支援する側」と「支援される側」はもう古い！
各地で進む支え合い・健康づくり・コロナ対策
みんな欠かせない主役

フレイル予防には「人とのつながり」が重要 - 様々な活動の複数実施とフレイルへのリスク -



(吉澤裕世、田中友規、飯島勝天、2017年 日本老年医学会学術集会発表、論文準備中)

日進市版

各地で進む 支え合い・健康づくり・コロナ対策

【坂の上カフェ】

日進ニュータウンほっとカフェ「坂の上カフェ」は、4月にほっとカフェを再開しました。

場所は、いつもの集会所から200m離れた北山ふれあい広場。集会所と広場間をスタッフが、何回も何回往復しながらコーヒポットを運び、参加者にふるまいました。

受付のスタッフは、検温と手指消毒を促して、コーヒを混ぜるスプーンも共有しないというコロナ対策も徹底していました。

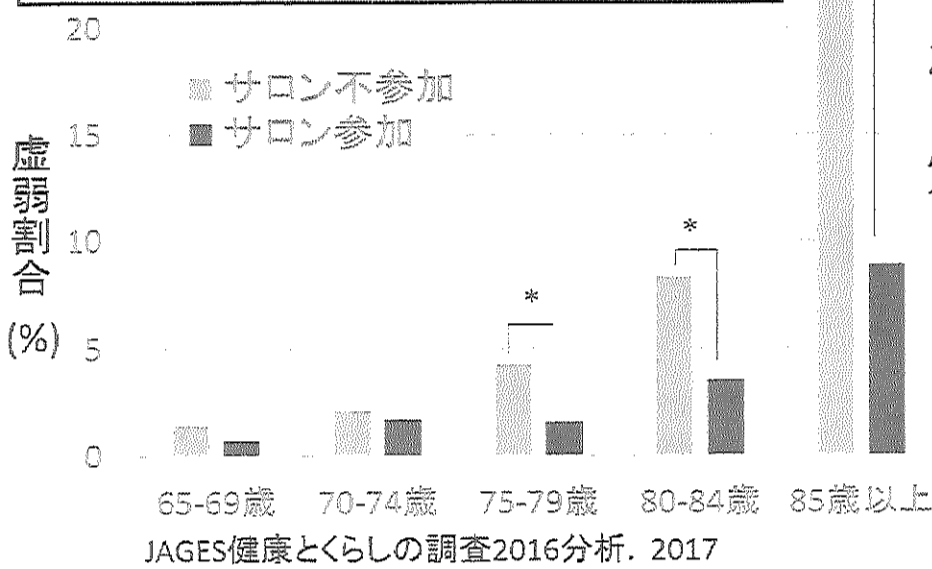
久しぶりに再会した参加者は、自粛期間中の様子を伝え合ったり、冗談を言い合ったり

とあちらこちらで笑い声が聞こえてきました。

「家に閉じこもってばかりで、気が滅入っていたので本当にうれしい」と話す参加者も。

ちなみに、つどいの場等に参加する方は、参加しない方に比べて虚弱になりにくいという追跡結果もあります。(下図)

【つどいの場に参加すると虚弱になりにくい】



【買物支援(南ヶ丘福祉まちづくり協議会)】

免許返納者や買い物困難な地域住民を、近所のスーパーまで乗り合い方式で送迎する取り組みを始めたのは、南ヶ丘福祉まちづくり協議会の有志のみなさん。

南ヶ丘の団地内数カ所利用者を乗せた後、最寄りのスーパーと日進駅まで送迎する車の名前は『ゆるん号』。「ゆるん」と楽しくおでかけしてほしいという有志の思いが詰まっています。

こちらも乗車前の検温と手指消毒などのサポート付きです。週に1回使う方も、週に2回使う方も、それぞれ上手に利用しているようです。

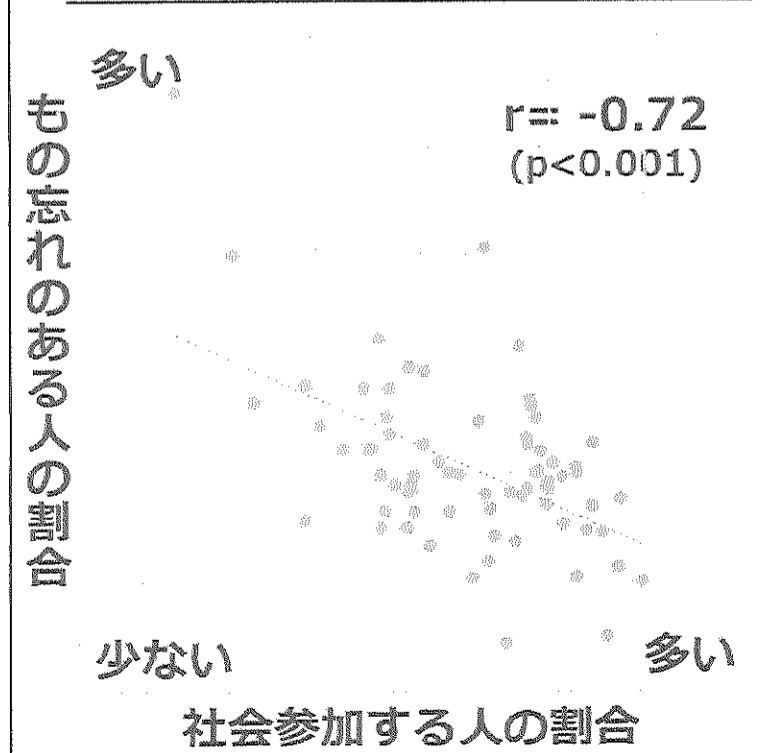
みんな欠かせない大切な主役

坂の上カフェもゆるん号も、主役はスタッフだけではありません。どちらの支え合いも、利用者がいてはじめて成り立つ「支え合い・助け合い」で、参加者の皆さんも欠かせない主役です。

社会参加する

人が多い市町ほど、もの忘れがある人が少ないことがわかっています。(下図) 何気なく行っているカフェへの参加や移動支援の利用は、地域のもの忘れする人の減少に大きく影響しています。これも大事な「支え合い」です。

社会参加と「もの忘れ」の偏相関



報道発表 Press Release No: 189-19-23

これからは、要支援・要介護の方お元気な方も、困った時は地域で支え合うしくみを創っていく必要があります。

【各地域にしくみづくりのコーディネーターを配置しています。ご相談ください。】

- 中部地区担当: 荒川(0561-72-5028:(有)はじめの一步)
- 東部地区担当: 浅野・村居(0561-75-5105:NPO法人介護サービスくら)
- 西部地区担当: 池谷(0561-74-0775:(株)アンジュ)
- 市全域担当: 富岡・松本(0561-73-4885:日進市社会福祉協議会)

「地域にある支え合い」や「あったらいいなと思う支え合い」をコーディネーターに教えてください。

そのために